

# 塩竈の歩み



▲昭和45年の陸上パレード (塩竈みなと祭協賛会提供)  
◀令和元年の陸上パレード

## 全国に誇る夏の祭典

### 塩竈みなと祭

みなと祭が始まった昭和23年当時は、7月10日の鹽竈神社例祭にあわせて、御神輿を「御座船鳳凰丸(ほうおうまる)」に奉安し、松島湾を巡幸していました。昭和39年から「御座船龍鳳丸(りゅうほうまる)」も加わり、2隻による神輿海上渡御(ときよ)が行われるようになりました。約100隻におよぶ供奉船(ぶせん)を従え日本三景松島湾内を巡幸する海上渡御は勇壮な祭りとして、日本三大船祭りの一つに数えられています。

さらに、祭りをより盛大に楽しむために、「よしこの鹽竈」踊りコンテストをはじめとする陸上パレードや前夜祭の花火大会、縁日広場も企画され、海と陸、一体の祭りとして繰り広げられるようになり、市民総参加の夏のイベントに発展しました。平成26年には「ふるさとイベント大賞」において地域の活力を生み出す祭りとして評価され、「内閣総理大臣賞(大賞)」を受賞し、市民が全国に誇る夏の祭典となりました。昨年到现在、今年のみならず全国的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、残念ながら中止が決定しました。来年は3年分の思いを込めて盛大に開催されることが期待されます。

しおがまの昔・懐かし

## 思い出写真館 ②⑥

塩竈市80年の歴史を振り返る



写真は平成16年・21年にパレードで活躍した陸上御座船です。御神輿が海上を巡幸されている間の賑わいを作ってほしいという話から、塩釜商工会議所青年部のメンバーによって製作されました。昭和61年に作られた陸上御座船の部品を一部引き継いで復刻しました。製作に関わった方は「当初は簡単なので大丈夫と言われたが、船屋として恰好悪いことはできないと思い、鳳凰丸の実物をしっかりと見て作った。段々と照明、装飾、音響などの他のメンバーのこだわりが合わさって、立派なものになっていった。人が乗る予定じゃなかったのに、最後には10人以上のお囃子隊が生演奏をしたりしてね」と笑顔で当時の思い出を話してくれました。